市政ニュース

日本学術会議公開シンポジウム「生物多様性をめぐる科学と社会の対話」開催

5月22日、日本学術会議の統合生物学委員会が、豊岡の地で委員会を開催。併せて、生物多様性に関する最先端の研究を市民に分かりやすく伝えるための公開シンポジウム「生物多様性をめぐる科学と社会の対話」を催しました。

この日は、国連が定める「国際生物多様性の日」。8人の研究者による生物多様性のリレートークに加え、地元のコウノトリ市民研究所など、さまざまな活動の実践報告も行われました。

世の中には数えきれないほどの命があり、互いがどこかでかかわり合いながら生きていることを再認識。壮大な話ではありますが、まずは身近な命のつながりを守っていくことが大切なのだと実感しました。

今後も国際生物多様性年にかかるさまざまな関連事業を展開し、名古屋COP10（第10回締約国会議）や「コウノトリ未来・国際かいぎ」につなげます。

▲東京大学の鷲谷いづみ教授がエスコート

▲多くの来場者があり、中貝市長も参加

～「豊岡エコバレー」を目指して～ 経済成長戦略実行元年記念イベント開催

5月24日、「地域からの挑戦！賢者から学ぶ新機軸！」と題した、経済成長戦略実行元年記念イベントを、豊岡市民プラザで開催しました。

最初に、2008年にポーター賞（高い収益性を達成している企業・事業を表彰）を受賞した東海バネ工業㈱代表取締役社長の渡辺良機さんが講演しました。

続いて、地元企業による先駆的な環境経済取組事例の発表が行われ、首長サミットでは、エコバレーを推進する徳島県上勝町長の笠松和市さんと中貝市長が対談しました。

市は、今後10年間で、環境都市「豊岡エコバレー」の実現を目指します。行政・市民・事業者が共通認識を持ち、機運が高まるよう、さらなる取組みを進めます。

▲東海バネ工業㈱の渡辺社長が「不況は成功のチャンス」と講演

～より便利に快適に～ 竹野子育てセンター竣工式挙行

竹野子育てセンターのリニューアル工事が完了し、テラス付きの遊戯室、調理室、研修室、相談室などが整備されました。

5月28日、竣工式を行い、利用者による手作りくす玉割りや歌で完成を祝いました。

式の後は、くつした人形ダンスや親子音楽遊びのオープニングイベントを開催しました。

▲完成を歌で祝う利用者の皆さん

～主な市政の動き～

【5月】
15日 第3回全日本マスターズレガッタ（～16日）
22日・「コウノトリ夢ひこうき」さよならセレモニー
・日本学術会議公開シンポジウム チャレンジデー2010参加
26日 竹野子育てセンター竣工式
28日 市内中学2年生「トライやる・ウィーク」（～6月5日）
31日 市職員エコスタイル実施（～9月30日）

【6月】
1日 コウノトリ文化館開館10周年
3日 市議会定例会開会（～29日）
4日 植村直己冒険賞授賞式・記念講演会
5日・市役所大雨・洪水防災訓練（図上訓練）
8日・第6回水害サミット（東京都）
・今年度野外で初のコウノトリのヒナ巣立ち（戸島湿地人工巣塔）

～のじぎく兵庫国体（平成18年）以来の大規模なボート大会～
「第3回全日本マスターズレガッタ」開催

5月15日と16日の2日間、「第3回全日本マスターズレガッタ」が、円山川城崎漕艇場（城崎町楽々浦）で開催され、全国各地から101団体、男女968人が参加しました。

この大会は、ボートを生涯スポーツとして多くの方に楽しんでいただき、競技の普及や地域の活性化を図ることを目的としています。

会場では、地元の皆さんが、わかめスープやおしるこなどを振る舞い、選手を応援しました。初日の競技終了後には、城崎温泉街で歓迎レセプションを行い、参加者は楽しいひとときを過ごしました。

選手からは「地元の温かいおもてなし、風情ある街並みとゆっくりくつろげる温泉が良かった。また、城崎に来たい」との声が聞かれました。

▲みんなで力を合わせ、懸命にこぐ参加者たち

～東井義雄さんの教えを伝える～
布引中学校「いのちの輝き体験教育旅行」で来訪

5月27日から29日までの3日間、神戸市立布引中学校2年生が「いのちの輝き体験教育旅行」で来訪しました。

旅行の中で、コウノトリの野生復帰の取組みとそれを支える農業を学び、実際に田植えもしました。農家生活体験や農家民泊（ホームステイ）では、地域住民との交流を楽しみました。

また、東井義雄記念館や日本・モンゴル民族博物館にも足を運びました。

これらの体験や触れ合いは、生徒たちが、いのちの輝きやいのちの尊さを再認識するまたとない機会となりました。

▲初めての田植えも頑張りました

国内外のどこでも放送が聴ける
FMジャングルのインターネット放送スタート

コミュニティエフエム「FMジャングル」のインターネット放送（サイマル放送）が7月1日から始まります。

インターネット放送（http://www.764.fm/）により、これまでFMジャングルの通常放送を聴けなかった市内の地域はもちろんのこと、国内外を問わず、リアルタイムで聴くことができる（他局制作番組は除く）ようになります。

中貝市長の徒然日記 32

冒険家たち

市内各地でコウノトリの幼鳥が巣立っています。高さ12メートルほどの巣塔。幼鳥にとって、大冒険なのではないかと思います。

昨年、野上の電柱の上で生まれた幼鳥は、四国へ飛んだ後、福井県越前市に移動し、「えっちゃん」という名前で特別住民票をもらっています。

一昨年、戸島湿地で生まれた鳥も、四国へ行ったかと思うと新潟に現れ、今はさらに遠く宮城県大崎市の蕪栗沼に居ついています。

サル学の世界的権威である河合雅雄先生が、「コウノトリに冒険賞をやりたい」とよく言われます。同感です。

で、人間の方です。第14回の植村直己冒険賞の受賞者は、中西大輔さんです。11年間ひたすら自転車をこぎ続け、走行距離が15万2千キロメートル。北へ南へ東へ西へ、世界を2周。訪問した国は130カ国に達しました。この間、日本への帰国はわずかに3回、合計2カ月。ご両親によると、「3年ほど行ってくるわ、と出て行ったきり、帰ってこんのです」。果てしない物語です。素敵な人たちとの出会いが、旅のエネルギーでした。冒険とは、まさに「理想への突進（森本哲郎）」です。

私の経験ですが、まだ小学校に上がって間もないころ、上級生に誘われて、自転車で野上にある金比羅山の親戚に行ったことがあります。初めての遠出。村はどんどん遠ざかり、心細くなる。このまま進んでいいのだろうか。不安と期待。でも自転車は前に進む。今から思えば、わずか4、5キロメートルのことですが、私にとっては、大冒険でした。

皆さん、同様の経験をお持ちだと思います。そのはるかかなたの延長線上に、中西さんの大冒険があります。

すごい人たちがいます。冒険者たちに、心からの拍手を。